



AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス (JSO)

No.154

震災被災地の精神科医療支援を続ける (その1)

A類常任理事 金杉和夫

2011年3月11日の東日本大震災の発生時は東京練馬のクリニックで診察中でした。大きく長い揺れで驚きましたが、ものも壊れず人に被害もなく診療を続けることができました。交通がストップしたためその晩はクリニックに泊まり、テレビの生々しい映像で東北の恐ろしい津波の被害を知りました。福島原発破壊の放射能被害の重大さが次第に明らかになったのは翌日以降のことでした。

被災地の支援に駆けつけるために、診察を休めるようにスケジュールを調整し、受け入れ先を探し、精神科のクリニックの全国組織である日本精神科診療所協会（日精診）の支援活動に参加することになり、やっと動き始めた高速バスで仙台に入ったのは3月31日でした。満席のバスの乗客の多くは大きな荷物を持ち硬い表情で押し黙り、被災した家族の消息を案じながら郷里に戻る人たちのようでした。

バスの着いた仙台駅は外壁が壊れ閉鎖され、道路には亀裂や陥没が見られ、崩れた家屋も多く、商店もほとんど閉じて、人通りも少なく街の賑わいはなかった。現地に先乗りしている神奈川のクリニックのスタッフが探してくれたビジネスホテルの客室に入った途端、大きな余震に見舞われて、被災地にきたことを実感し、心細い気持ちになった。

翌日から2日間仙台市若林区のこころのケアチームの活動に参加した。区の保健福祉センターを拠点に、保健師、医師、精神保健福祉士のチームで小中学校、市民センター、体育館などに設けられた避難所を車で巡回した。

若林区は仙台駅の東側から海岸まで続く地域で、荒浜という海水浴の出来る美しい海岸から内陸へ4～5Kmの仙台東部道路という高速道路までの地域が津波で壊滅し、多くの人が亡くなった。高速道路が堤防になって津波をせき止めたので、道路の西側は無傷で畑と住宅地ののどかな風景だが、全く対照的に道路の東側は全ての建物がコンクリートの土台を残して消失し、瓦礫と自動車の残骸が散乱して、見渡す限り一面が原爆の爆心地のような光景である。

瓦礫の中に布切れの付いた棒が立ち、大破した車のガラスに×印が1つ2つと付けられているのは、そこで人が亡くなったことを示していると思われた。多くの人がここで苦しんで命を失ったことが強く胸に迫った。海岸寄りの避難所には、命から

がら津波から逃れた人と、自分が仕事などで外出している間に津波で家族と住まいを一瞬にして奪われた人が多い。

市街地仙台駅寄りの避難所には、自宅にいて地震に遭い恐怖を体験し、余震が怖くて自宅に戻れない人が多い。避難所の様子は、板の間に毛布を敷いて回りに荷物を置いて、家族が身を寄せ合って寒くて固い寝床で休み、身を隠すプライバシーもない厳しい環境である。

チームのリーダーをしてくれる仙台市の保健師も、各避難所の健康管理を担当している全国の自治体から派遣された保健師たちも、極めて優秀で積極的によく動き、被災者に関わり、世話している。全国の公立病院や総合病院から派遣された医療チームの医師や看護師もこまめに避難所を回っている。みんな20～30代と思われる若い人たちで頼もしかった。

被災した人たちは寒さと不自由な避難生活に辛抱強く励まし合って耐えていた。

保健師から依頼されたケースを診察した。大きく分けると、地震や津波に被災したときの恐怖体験から発症した人、家族や家を失った喪失体験から発症した人、被災後の避難所生活のストレスから元々の病状が顕在化したり悪化したケースが見られた。アルコール依存症の人は避難所生活で飲酒できなくなって、離脱症状を起こし不眠やせん妄になった人が多かった。

この時期の石巻や三陸沿岸の地域の被災者はもっと厳しい状況だった。仙台や内陸から支援に入ること自体が難しく、食糧、飲み水がない、トイレがない、衛生環境が危機的だった。放射能被害を逃れて福島県から避難した人たちの状況も深刻だった。

5月以降私は月1日のペースで石巻周辺の支援活動に出かけている。石巻の宮城クリニックと仙台の原クリニックの献身的な被災者支援をお手伝いしている。石巻での活動については次号で改めて報告したい。

新任理事の挨拶

私のプロフィール

B類常任理事 中村

はじめまして、B類東日本圏地方常任理事に選ばれましたアルコホーリックの中村です。

昨年は、東日本大震災により私たち太平洋沿岸の人々は未曾有（みぞう）の経験をしました。全国の皆さんから心温まるご声援・ご支援品やボランティア活動等をして戴き有難うございます。勝手ながら被災者を代表し、この誌面をお借りして、心より御礼申し上げます。

2012年第22回 WSM(ワールド・サービス・ミーティング)
テーマ分かち合いのお願い —パート2—

WSM後期評議員 新村

今年のAA・WSM はニューヨーク市で10月21日から25日の5日間にわたって開催されます。各国の代表である WSM 評議員の参加の登録もほぼ終わり、いよいよ7つのテーマに基づいたプレゼンと3つのワークショップのテーマのスピーチの割当の準備が WSM 事務局で具体的に始まろうとしています。

2010年の第21回 WSM メキシコに参加した時に、日本での経験と力と希望の分かち合いを日本の代表として参加各国の WSM 評議員たちと分かち合うことの必要性を強く感じて帰国しました。この機会に日本全国の仲間やグループのみなさまとこの紙面を通して一緒に分かち合えたらと願っています。

そして前号のテーマ「輪番制—AAの鼓動—」に引き続き、下記のテーマについても、みなさまの経験、ご意見、疑問点などをメールアドレス aajapanwsm@gmail.com へお寄せいただければ、WSMにおいて世界の評議員たちと日本での経験を分かち合いたいと考えています。

— 記 —

1. AAにおける若者

- (a) 若者へのスポンサーシップについては
- (b) 若者に手を差延べAAに留まれるようにするために、どのようにしていますか？
- (c) 若者のAAミーティング出席の法律的・道徳的問題をどう対処するか

2. インターネットとその利用

- (a) GSOのガイドラインを知っていますか？
 - (b) AAの発展のためインターネット利用の成功例は
 - (c) AAメンバーのソーシャルネットワーク参加の長所と短所
- 今年の4月のアメリカ・カナダの第62回ゼネラルサービス評議会では、テーマ:「アノニシティ」「デジタル時代のスピリチュアルな責任」でした。

日本でも個人やグループ、地区単位、COなどホームページの開設、個人のSNSなどへの参加での問題点についての分かち合いが必要ではないでしょうか？多くの問題をはらんでいるのではないのでしょうか？

3. アルコール以外の問題

- (a) AAがすること・しないこと
- (b) 関係機関と協力はするけれど従属せず
- (c) 第5の伝統: 私たちの本来の目的は

4. 文書について

- (a) AA文書のスピリチュアルな価値について
- (b) メッセージを運ぶ上でのAA文書の重要性について

ほかにもまだテーマはありますが、関心のある方は上記メールアドレスまでご連絡いただければ 返信させていただきます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

6月10日はAAグループの誕生日！！
国際協力献金(出版基金と協力献金)のお願い

国際協力委員会

今年はAAが始まって77年目を迎えています。今年のAA・GSO (NY)の「BOX-459」ニューズレター夏季号の紙上で、(推定)世界のメンバー数は2,133,842人、グループ数は114,070グループと発表されました。

1935年にAAが始まってその4年後の1939年4月には『アルコホーリクス・アノニマス』(ビッグブック)がAAの共同創始者ビル・W とドクター・ボブそして仲間たちによってAAの回復の原理が正確に世界のアルコホーリクたちにメッセージとして届けられるように出版されました。そして現在ビッグブックをはじめ、多くのAAの出版物が70言語に翻訳されて180カ国にAAグループが存在し、毎日多くのアルコホーリクたちが回復と成長を続けているのです。

国際出版基金は、1990年開催の第11回WSM(ワールドサービス・ミーティング)において、AAが始まったばかりの国のAAに対してAAゼネラルサービス評議会承認出版物の翻訳出版の支援をする為に、WSM参加国に基金の協力を呼び掛けたのがきっかけで始まりました。

その20年後の2010年には30数カ国から献金がWSM事務局に送られて、出版資金の無い国々からの要請に基づいて、ニューヨークのAA・WS社の援助で多くのAA出版物が翻訳出版されています。その結果AAプログラムがアルコホーリクたちに届けられて世界中の多くの仲間が回復と成長の道を歩き始めていることが、2010年のWSMでもアメリカ・カナダの常任理事会から感謝の念をもって報告されています。

日本も1979年に、AAアメリカ・カナダのワールドサービスの資金的な援助でビッグブックが翻訳出版されてメッセージ活動と相まってAAの回復の原理が数知れぬ多くのアルコホーリクスに今も届けられているのです。

そして現在、仲間のAAへの思いで寄せられた国際協力献金は、毎年主に国際出版基金と一部分はWSMやAOSM開催のための資金としてニューヨークのGSOのWSM事務局とAOSM事務局に送金され、感謝の言葉を添えて献金明細報告書が各国のGSOに届けられています。

献金の額にかかわらず、献金の行為そのものがワールドサービスに参加していることになり、その事がまだAAの回復のプログラムを知らないで苦しんでいる世界中の未来の仲間への愛あるメッセージ活動へと広がっていくのだと思います。一人でも多くの仲間のご協力をお願いいたします。ご送金は、こちらまで。

郵便振替口座

口座番号: 00180-0-68876

加入者名: AA JSO

通信欄に「2012国際協力献金」、グループ名等をご記入の上、ご送金願います。

編集・発行: NPO 法人 AA日本ゼネラルサービス (JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

http://www.aajapan.org jso-1@fol.hi-ho.ne.jp